

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (中学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

鹿本中学校

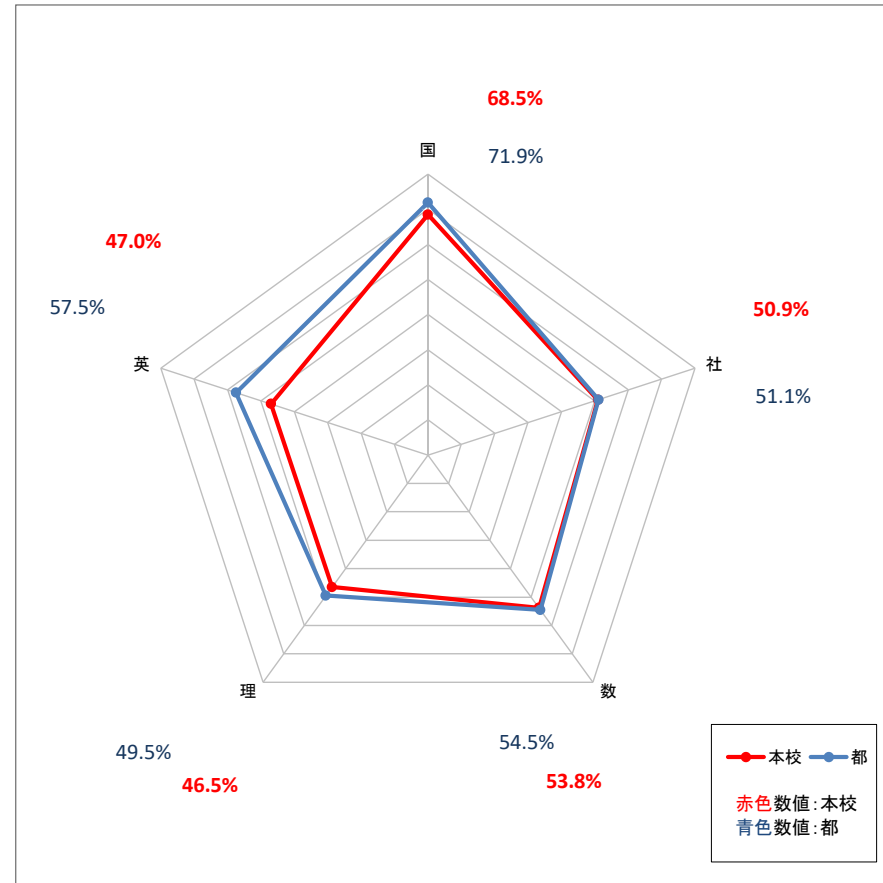
国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	74.8%	58.9%	79.3%	69.1%	71.9%
本校	71.1%	55.8%	80.0%	62.2%	68.5%
都との差	-3.7	-3.1	0.7	-6.9	-3.4

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
東京都	48.7%	61.9%	41.1%	51.1%
本校	48.2%	63.5%	39.0%	50.9%
都との差	-0.5	1.6	-2.1	-0.2

数学	教科の観点			教科の合計
	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	
東京都	31.4%	62.4%	63.3%	54.5%
本校	32.0%	60.3%	63.6%	53.8%
都との差	0.6	-2.1	0.3	-0.7

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	
東京都	43.9%	60.2%	47.4%	49.5%
本校	41.5%	60.2%	42.5%	46.5%
都との差	-2.4	0.0	-4.9	-3.0

英語	教科の観点			教科の合計
	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
東京都	46.1%	62.4%	59.2%	57.5%
本校	29.4%	56.0%	46.8%	47.0%
都との差	-16.7	-6.4	-12.4	-10.5



《都との比較にみる本校の状況》

■国語「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率が、都の平均正答率より6.9%下回っており、全観点の中で最も低い。言葉を覚えても、様々な場面で活用がされていない。「話す・聞く能力」の観点で、都の平均正答率より3.7%下回り、相手に伝わるための工夫を考えるのが苦手な傾向 ■社会「社会的な思考・判断・表現」の平均正答率は、都の平均より0.5%下回ったが、「資料活用の技能」の平均正答率は、都の平均より1.6%上回った。「社会的事象についての知識・理解」の平均正答率で都の平均より2.1%下回っており「知識・理解」の習得が課題 ■数学「見方・考え方」及び「知識・理解」について都の平均をわずかながらに越えたが、「技能」が-2.1ポイントと課題 ■理科「科学的な思考・表現」の平均正答率は、都の平均より2.4%下回った。「自然事象についての知識・理解」の平均正答率は、都の平均よりも4.9%も下回った。しかし「観察・実験の技能」の平均正答率は都の平均と同じであった。「知識・理解」の習得が課題 ■英語「外国語表現の能力」の正答率が-16.7%、「外国語理解の力」が-6.4%、「言語や文化についての知識・理解」が-12.4%都の平均より下回った。すべての技能の向上が課題

《授業改善のポイント》

■国語「言語について知識・理解・技能」を高める為、語句調べや短文作りを単元の最初に取り入れる。また、読み物教材の言葉の対義語や類義語等、関連のある言葉を考え、言葉を意識できる授業を展開。「話す・聞く」能力を高める為、スピーチ学習活動を通し、班で、「良かった所」「改善点」を教えつもらい、自信をもってクラス全体でスピーチできるよう工夫。 ■社会「社会的な思考・判断・表現」を高める為、社会的事象について考察や構想した事を資料を用いて相手に伝えたり、話し合ったりする活動を行う。「社会的事象についての知識・理解」を高める為、小テストなどの反復学習を取り入れると同時に、理解した事を活かして「何ができるか」、得た知識を「どう生かすか」を意識した授業を行う。 ■数学：授業内での基礎的な計算の反復演習及び、学習コンテンツとその補習を用い、「数学的な技能」の定着を図る。また習熟度別授業の強みを活かし、生徒の習熟度に応じて問題文から数式を導き出す力を身に付ける。 ■理科「科学的な思考・表現」を高める為、実験ごとにレポートを作成し一人一人が結果を分析し解釈してまとめる活動を行う。「自然事象についての知識・理解」を高める為プリントでの演習などの反復学習を取り入れ知識の定着を図る。 ■英語：授業に対する基本的な姿勢は定着。「英語を嫌いにならない授業」から「英語を聞く読む、書く、話す力を伸ばす授業」へステップアップする。

《家庭・地域への働きかけ》

■国語：言葉や漢字の機械的な暗記だけでなく、授業で習得した言葉を日常生活で使い、どのような場面で活用できるか考える機会を設ける事が重要。〈例〉日常会話で正しく言葉が使われているかの確認や作文を書く時に積極的に慣用的な表現や漢字を使ったりする事が大切。 ■社会：学力の状況として「知識・理解」の習得に課題がみられる。ただ「知識」を覚える事だけでは、現代のような変化の激しい社会において対応する事は困難。テストのための学力ではなく、「よりよく生きていく為の学力」として、課題の発見、追究、解決に向けた学習が重要。家庭や地域で世の中の仕組みや制度に疑問や興味を持ち、話題にしていく事を勧めたい。 ■数学：基礎的な学力の向上には日々の学習習慣の定着と確実な問題演習が不可欠。問題集等を用い適宜課題・宿題を与え、日頃から家庭学習の習慣を身につける事が肝要。 ■理科：課題として「知識・理解」の習得があげられる。用語等を暗記するだけでは定着に繋がらない。主体的な学びとして、習得した知識を日常生活で活用していく事で知識の習得に繋がる。その為、家庭や地域において、日常にあるなぜを見つけ出し、考え、調べ、話し合う事を勧めたい。 ■英語：二度目のオリンピックを迎える日本で、「なんで日本人が英語？」という声があがらないよう、英語が世界共通語に一番近い言語であるという事実を解かりやすく伝えていく。